

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大仙市立大曲南中学校

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒014-1412

秋田県大仙市藤木上野中 70-2

E-mail om-minamityu@edu.city.daisen.akita.jp

Website http://www.edu.city.daisen.akita.jp/~om-minamityu/

幼児児童生徒数 男子 34 名 女子 42 名 合計 76 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### 4. (1) 活動の概要

当校は、「持続可能な社会に向けた人づくりを目指した、問題解決的な学習を中心とする全教育活動における指導方法等の工夫改善」を ESD の研究テーマとして、ESD の実践を通して、体験を通じた思考力・判断力・表現力等の育成を重点とした「社会的実践力」を育むことで、「生きる力」の育成に資することを目標とした。

具体的には、

- ① 全教科等の授業における共通実践事項の徹底による、協働的な実践力の育成
- ② ゴールを設定し、それを見通した総合的な学習の時間の学習を生かして、学んだことを発信する力や生活に活用する力の育成
- ③ “Think Globally, Act Locally” の視点での、地域内の異校種や身近な地域社会、関係機関とともに、地域を越えた中学校との交流と連携の充実に3つの柱として、ESD の資質・能力の育成と生活への活用力を育む活動を実践した。

#### ① 全教科等での共通実践事項の徹底

・全教科等で問題解決的な学習を推進するために、共通実践事項と実践す

るための手立てを明確にした取組を重ねた。問題解決的な学習を軸として、話し合いを中心とした協働的な学びを重視し、小グループでの意見交流を生かした学習を全教科等で継続した。グループでの「司会、記録、発表、反応」という役割分担を継続し、学び合いの活性化と焦点化を図った。

## ② ゴールを見通した総合的な学習の時間

- ・ 1年「食育」、2年「エネルギー教育」、3年「国際教育」という継続した学年テーマに沿って、体験を重視した総合的な学習の時間を実施した。その中で、一人一人の課題を明確にすることと、学習を進めた一年先のゴールを意識させることで、生活への活用までを見越した学習に取り組ませた。

## ③ 地域内の異校種や身近な地域社会、関係機関とともに、地域を越えた中学校との交流と連携

- ・ 小・中合同研究で設定した「ESDカレンダー」と「各発達段階で身に付けさせたいESDの力」を運用し、生徒の自己評価も加味しながら検討・修正を続けている。
- ・ 国際教育の一環として、国際教養大学との相互交流、海外の生徒とのスカイプでの交流等、ICTを活用した交流を重ね、英語をツールとしたコミュニケーション活動を行った。



① 小グループでの意見交流を軸とした、課題解決学習



② ゴールを見通した体験学習、2年生「エネルギー教育」



③ 交流と連携、ICTを利用した海外の生徒との交流



③ 地区内の小・中連携、大曲南地区SDGsをもとにした交流

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材(書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

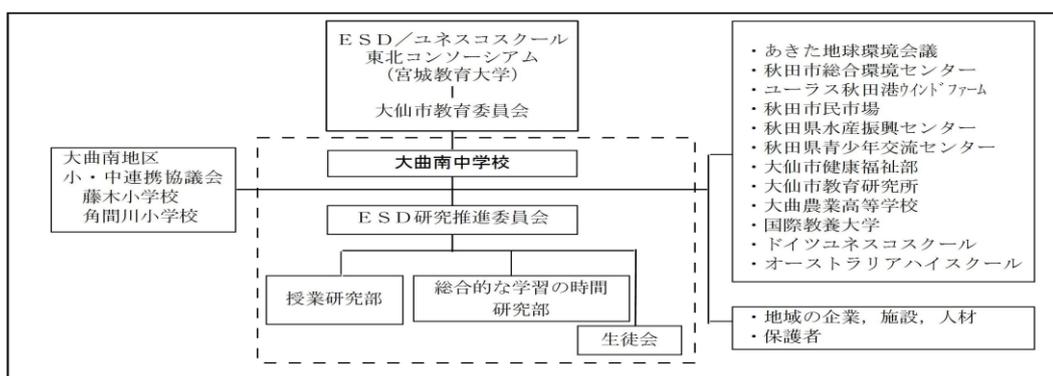
SDGsパンフレット	秋田県の風力発電の概況	日本の食糧自給率
秋田県の食糧自給率	日本のフードロスについて	他多数

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

・授業はもちろん、学校生活のあらゆる場面で「課題の受信→個での思考・解決→学び合いのための発信→学びの発信」のサイクルを循環できるような、視点を明確にした「聴く」指導を徹底した。また、課題についても、広く概念的なものだけでなく、実生活や時事に即した内容を意図的に取り上げ、学びと実生活の接点を感じられるようにした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

・校内研究体制と、学校や他の組織との連携を下のように組織し、相互の連携により、機能的な取組を進めている。



- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。）

・前期の生徒アンケートでは、それぞれ評価の低い項目があった。課題意識を持たせ、ゴールを見通した体験学習に意欲的に取り組ませたことにより、それぞれの項目の平均値が「課題を見付ける力」3.40→3.65、「発信する力」3.30→3.64、「生活に活用する力」3.37→3.52と、全てにおいて改善が見られた。特に「発信する力」については、三つのアンケート項目で調査したが、平均の上昇が0.35ポイントと最も大きく、本校の長年の課題であった、表現力の改善にもつながる成果となった。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

- ・教育課程指定校事業公開授業研究会及び大曲南地区オープンスクール（授業公開：数学・社会，小・中交流授業②，研究協議会，講演：国研調査官）を実施。日本各地から参会者を招き，ESDによる学びの成果を公開し，参加者から実践に対する高い評価を得た。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

- ・1年生の食育に関わり，JA秋田おばこ，秋田市民市場，イオンモール秋田との連携。
- ・2年生のエネルギー教育に関わり，ユーラス秋田港ウインドファーム，秋田市環境保全センターとの連携。
- ・全校生徒と角間川盆踊り保存会との連携による，伝統芸能継承活動。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

- ・ドイツのユネスコスクールとのメールによる情報交換の継続。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

- ・大曲南中ESDの取組を、広く発信したことにより、保護者・地域からの理解と協力を得られた。
- ・生徒の前期、後期のESDに関わるアンケート結果が、全ての項目で上昇したことにより、生徒の確かな変容を見取ることができ、生徒自身も個人はもとより、学年・学級としての高まりを味わうことができた。

### （3）平成30年度の活動計画

- ・全教科等での共通実践事項の徹底による、授業改善の継続
- ・「有機肥料で育てる野菜」栽培（1年）
- ・環境と食についての出前授業（大曲農業高校と連携）（1年）
- ・省エネクッキング出前授業（あきた地球環境会議）（1年）
- ・大仙市食生活改善推進委員による食育教室（2年）
- ・緑のカーテンプロジェクト（1・2年）
- ・秋田市民市場・イオンモール秋田訪問（1年）
- ・秋田風力発電所見学（2年）
- ・秋田市総合環境保全センター見学（2年）
- ・地域企業でのワークスケーリングでエコ実践（2年）
- ・修学旅行での自然・環境に関わる最先端科学技術見学（2年）
- ・海外ユネスコス쿨との交流（3年）
- ・オーストラリアの生徒とのスカイプ授業（3年）
- ・国際教養大学訪問交流プログラムを利用した留学生との交流（3年）
- ・国際教養大学での学びを共有し合う南中環境会議実施（3年）
- ・国際教養大学の留学生を迎えての進路集会（全学年）
- ・アルミ缶、古紙、ペットボトルキャップ回収活動（全学年）
- ・小・中合同クリーンアップ（全学年）
- ・地域団体と一緒に親水公園クリーンアップ（全学年）
- ・学校祭環境学習発表会（全学年）
- ・環境通信 ESDom 発行
- ・角間川盆踊り参加（全学年）
- ・学校祭での盆踊り・梵天披露（全学年）